

## < 家 庭 > 科 学 習 シ ラ バ ス

科 目	家庭基礎	学年・類型	1年生	単位数	2単位	教科書	家庭基礎 自立・共生・創造 (東京書籍)				
学習の到達目標		1 心豊かな生活を目指すために必要な基礎的・基本的な知識と技術を身に付けます。 2 実習や体験的な学習を通して、生きる力や相手を尊重することの大切さを認識します。 3 家庭クラブ活動やホームプロジェクトを通して、問題解決能力や実践的態度を養います。									
評価の観点	A 関心・意欲・態度	B 思考・判断・表現	C 技能	D 知識・理解							
評価の内容	人の一生と家族、子どもの発達と保育、高齢者の生活と福祉、衣食住、消費生活などについて関心をもち、その充実向上をめざして意欲的に取り組むとともに、実践的な態度を身に付けている。	人の一生と家族、子どもの発達と保育、高齢者の生活と福祉、衣食住、消費生活などについて見直し、生活課題を主体的に解決するために思考を深め、適切に判断し工夫し創造する能力を身に付けている。	人の一生と家族、子どもの発達と保育、高齢者の生活と福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な技術を総合的に身に付けている。	人の一生と家族、子どもの発達と保育、高齢者の生活と福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識を総合的に身に付けている。							
評価の方法	・学習活動への参加姿勢や態度 ・ノート、プリント類	・学習活動における発言内容や態度 ・ノート、プリント類	・実習における技術や態度 ・ノート、プリント類	・学習活動における発言内容 ・ノート、プリント類 ・定期考査							
学期	月	単元名・小単元名	学 習 の 指 導 内 容				評 価 の 観 点				
1 学 期	4	オリエンテーション 第1章 自分らしい人生をつくる 1 生涯発達の視点 2 青年期の課題 3 目標を持って生きる 4 人生をつくる	○各ライフステージの特徴と課題を理解する。 ○生涯発達の観点から今の自分を客観的に見つけ、生活課題に対応した意思決定の大切さを理解する。 ○男女が相互に協力して家庭を築くことの重要性を理解し、家庭生活の在り方について考える。 ○家族・家庭に関する基礎的な法律を知り、現在の動きを把握する。 ○家事労働・職業労働について知り、ワーク・ライフ・バランスについて考える。 ○子どもの育つ力と発達段階を知る。 ○人生の初期における親・家族や周囲の人々の関わりの大切さを学ぶ。 ○遊び、基本的な生活習慣の形成、食事、健康管理について学ぶ。 ○子どもとの触れ合いを通して、愛着の形成と親としての成長を理解する。 ○子どもを取りまく社会変化の現状について理解し、考える。 ○児童福祉の理念を理解し、子育て支援の現状を学ぶ。 ○高齢社会の現状と課題を理解する。 ○高齢期の心身の変化や特徴、個人差が大きいことを理解する。 ○高齢者に関する福祉について学び、高齢者を支える制度と課題を考える。 ○一生を通じた福祉や社会的支援の必要性を知る。 ○社会保障制度の理念と内容を理解する。 ○多様な人々のニーズ、ノーマライゼーション、ユニバーサルデザインの理念を理解している。 ○地域の防災力を高める意義と方法を考える。 ○被服のさまざまな役割を整理する。 ○被服材料の特徴を理解し、組成表示・取り扱い表示・サイズ表示などの意味が分かる。 ○汚れ落ちの仕組みを理解し、被服に適した洗濯や保管方法を知る。 ○生涯を通じて健康で安全な衣生活が営めるようになる。 ○布を使った生活の工夫を知る。 ○住居の機能や間取りについて理解する。 ○室内外の環境に着目し、安全性・快適性等を考慮する必要性を理解する。 ○バリアフリーの考え方を理解する。 ○住環境における地域社会とのつながりの重要性を理解し、持続可能な住生活とは何か考える。 ○日常の食生活を振り返り、食生活の変化や課題について理解する。 ○日本人の食事摂取基準や食品群別摂取量の目安を知り、自分や家族に当てはめる。 ○食品の選択や調理の際の安全に関する必要事項を学ぶ。 ○基本的な調理技術を学び、日常食を作れるようになる。 ○食生活の変化や問題点を知り、環境や食料自給率問題を考える。 ○生涯を通じて健康で安全な食生活が営めるようになる。 ○高校卒業後について、経済的自立と職業について主体的に考える必要性を理解する。 ○国際化・複雑化している経済社会と家計との関係を理解する。 ○キャッシュレス社会のメリット・デメリットを考え、契約や消費者信用、多重債務問題などを学習し、消費者として適切な判断ができるようにする。				○	○	○	○	
		5					5 家族・家庭を見つめる 6 これからの家庭生活と社会	○	○	○	○
	6	第2章 子どもと共に育つ 1 子どもの育つ力を知る 2 親として共に育つ 3 子どもとの触れ合いから学ぶ 4 これからの保育環境					○	○	○	○	
		7					第3章 高齢社会を生きる 1 高齢期を理解する 2 高齢者の心身の特徴 3 これからの高齢社会	○	○	○	○
							8・9	第4章 共に生き、共に支える 1 私たちの生活と福祉 2 社会保障の考え方 3 共に生きる 地域の防災力を高めよう	○	○	○
	2 学 期	10					第6章 衣生活をつくる 1 被服の役割を考える 2 被服を入手する 3 被服を管理する 4 これからの衣生活 5 布を用いた生活の知恵	○	○	○	○
							11	第7章 住生活をつくる 1 住生活について考える 2 住生活の計画と選択 3 これからの住生活	○	○	○
3 学 期		1	第5章 食生活をつくる 1 食生活の課題について考える 2 食事と栄養・食品 3 食生活の安全と衛生 4 生涯の健康を見通した食事計画 5 調理の基礎	○	○	○		○			
	2		第8章 経済生活を営む 1 職業生活を設計する 2 計画的に使う 3 国民経済・国際経済と家庭の経済生活 4 現代の消費社会 5 消費者の権利と責任	○	○	○	○				
		3		○	○	○	○				
学習のポイント		○遅刻や欠席、早退をなくし、教科書等忘れ物がないようにしましょう。 ○授業中は学習に集中し、私語は慎みましょう。 ○作品製作や実習には真摯に取り組み、必ず提出期限を守りましょう。									